

会 議 録

会議の名称	第3期西東京市子ども読書活動推進計画策定懇談会第2回会議録
開催日時	平成27年7月15日（水） 午後2時から4時
開催場所	イングビル3階 第2会議室
出席者	宮川委員 服部委員 鈴木（綾）委員 尾関委員 堀委員 吉澤委員 大友委員 上岡委員 鈴木（壮）委員 今西委員 森委員 安中委員 （欠席 倉内委員） 事務局 北嶋柳沢図書館地域館長
議 題	1 第3期西東京市子ども読書活動推進計画 小学生、中・高校生部分の 検討、各機関選出委員からの報告 2 今後の日程の確認について 3 その他 委員名簿について
会議資料の 名 称	1 所管課 学校・教育指導課における現況と取り組み 2 所管課 児童青少年課における現況と取り組み 3 所管課 図書館における現況と取り組み 4 第3期 子ども読書活動推進計画策定懇談会 スケジュール 5 西東京市子ども読書活動推進計画策定懇談会委員名簿 6 西東京市子ども読書活動推進計画策定懇談会第2回日程
記録方法	☐ 全文記録 ☒ 発言者の発言内容ごとの要点記録 ☐ 会議内容の要点記録

議題1 小学生、中・高校生部分の検討

- 座長 会議を始めます。
資料1のひな型を参考に作成していく。小学校部分の要点を解説していただき、他の委員より補足していただきたい。
- A委員 第2期の中間報告をたたき台として作成した。第2期では蔵書数と蔵書内容の充実としており、小学生に関しては充足率を100パーセント達成しているので、第3期では内容の充実を掲げ連携の強化を追加した。
- 座長 事業名ごとに具体的なレベルに関して意見を出していくこととする。
学校図書館の整備についてはどうか。充足率は内容・選書に重点を置いていくとあるが、古い資料の差し替えの目安はあるか。
- A委員 特に決まったものではなく、それぞれの学校司書の裁量で決めていく。
- 座長 教科書の改訂に伴って、蔵書内容の更新はあるか。
- A委員 選書の中には反映させていく。
- 座長 文科省で打ち出した「単元を貫く言語活動」について、国語科の教科書にも反映されているし、現場を動かしている考え方になっている。特に文学において以前のような詳細な読みを排し、子どもたちが自由に取り組みするような体勢を作りたいということで、今は場面を切って検討していく授業はなされない。
子どもたちが教材からおもしろい所を見つけてそれを発展させていく方向を意図している。関連本を読む、紹介文を書く、音読劇をする、などの活動をさせる。紹介文を書くことやPOPを作るなどが図書館とつながっていくことをかなり強く意図している。並行読書といって、同じ作者の作品や、テーマが重なる本を読むなど、教科書に作品が紹介されているページが設けられている。理科や社会なども今までは教科の授業と図書館は別だったが、強く接続するような教科指導の面も求められている。現場でどうか。
- A委員 「読書の時間」に本を探し読む。教科との接点については教師の依頼により本を集める。
- 座長 教科書に載っている本を集めてほしいと言う依頼はあるか。
- A委員 今年の4月に改訂されて、リストを整理して購入リストを教師に渡した。
- 副座長 廃棄はすんだのか。
- A委員 各学校によって異なる。
- 副座長 蔵書数に関しては、整備中とのことなので改善中としておいたほうが良いのではないか。
- A委員 文科省から標準図書数の調査があり、充たすことを一つの目安としている。
- 副座長 第3期計画を作成するので整合性がある内容になっているとよい。
- 座長 例えば、葛飾区の研究指定校で、国語の授業で読書の動機付けをしていくということを一年次にやっているが、2年生で『きつねのおきやくさま』というあまんきみこさんの教材があると学校図書館にあるキツネの本を持ち込むとか、同敷地内にある区立図書館から100冊規模で持ってきてクラスに並べることを教材ごとにやるなど、少し意図的な学校では凝る流れが現場にはある。
- B委員 今日は学校ということで進めているが、所管課が児童青少年課や図書館からの下書きはないのか。
- 事務局 資料2および3にある。最終的にはそれをひとつにまとめる。
- B委員 どういう形に作っていくのか見えていない。ばらばらに小学校のことを話すのではなく、小学生という横並びの中で、それぞれの関係課が入れていくことでいいのか。
- 座長 そのように進めていく。それぞれの関係課が入れていくわけだが、A委員が作成したものがボディーになりそうなので、それをまとめていく。
- B委員 中間報告であがっているものが、今回あがっていない。今回課題としてあげ

ないでいいのか。

- 座長 蔵書数のところは入れておいたほうがいいなどの意見が副座長からも出ているのでこの場で、足したり引いたりしていきたい。
- C委員 A委員が作成したひな型と中間報告との関係性があるが、作成した元表の現状が現況、課題、改善点が取り組み（具体例）となっている。取り組みなのであまり具体的にしないほうが、意見を言いやすいと思う。
- 座長 基にしているのが現状と課題・改善点あるが、このひな型はどうして現状と取り組みになったのか
- 事務局 他の自治体を見ていて、取り組みというと計画をたてやすいのかと考えた
- 座長 課題・改善点の方が整理しやすいか、取り組みのほうに何でも入れるのかどちらかである。
- 副座長 例えば、大規模校で教室が足りなくなった場合、図書室を空けざるをえない時に、書架不足になった場合にそれを取り組みといっても取り組むことができない。しかし、ある時期が過ぎたら、子どもの人数が減ったり建て替えが行われたりして常に動いていく。課題としては残しておいて、取り組みとしては3期として取り組めるものとしておいたほうがいい。
- 座長 現況と取り組みとすると課題が浮かび上がらない仕組みかもしれない。現況と課題・取り組みの方がいいのかもしれない。
具体的なレベルのときに決定する。現況を書く際には、課題を含んだ現況を意識しながらやっていく。
- B委員 中間報告のP13に郷土資料についての記載があるが、今回は学校図書館の役割としては入れないのか。
- A委員 今回の1-②の取り組みに記載がある。
- B委員 整備ではなく活用していくということでもいいのか。
- A委員 郷土資料は課題が多く、今回取り組みには記載しなかった。学校司書の間では郷土資料は所蔵登録できないというこの問題は前から取り上げられている。
- 座長 どうして登録できないのか。
- A委員 データ内容が学校司書によって差が出るので購入している市販データ以外は登録しない。データのないものは各校で対応するが、西東京市で発行しているものに関しては完全にデータがない。
- 座長 利用促進へ進みます。小中学校では朝読書は盛んに行われているのか。
- A委員 小学校に関してはそう聞いている。受け持っている学校は朝20分ほど。
- B委員 朝読書は小学校ではあまりしていない。中学校の方が盛んである。全校やっているが、各校やり方が違う。
- D委員 子どもの通っていた小学校は親の読み聞かせは朝10分しかなかった。以前は毎週行っていたがどんどん減っていった。息子の通っている市内中学校では、朝読書はめったになくて、年に1,2回だった。読み聞かせができていたとは言えなかった。
- 副座長 業間読書とはどのくらいされているのか。授業間読書とすると5分程度か。
- E委員 今は体育に力を入れており、朝読みの読み聞かせはあまりない。
- A委員 図書室にいても外に行こうという流れになっている。すべての子どもたちが業間読書をやっているわけではない。
- 座長 読書のことだけを話してもだめである。学校生活全体の中で、読書環境や読書の時間をどのようにデザインをすることが可能なのか、他との構造的な関係を入れていかないといけない。
- 副座長 環境を整えるすべての元になるこの「ノーメディアデー」を月1回実施されているのか。
- C委員 教育委員会発信としては、生活指導上の取り組みとして家庭でルールを作っ

てもらう。

- 座長 業間読書とは授業と授業の間の時間のことで、図書の時間とは全く違う。
- A委員 読書時間が減っているということは、学校図書館の取り組みだけで解決する問題ではない。計画の中で、どこまで言及していいのか。
- 座長 それは「はじめに」とかの総論的ところでやっていく。
(3) 教職員～ に進めます。図書館部の活動はどんなものなのか。司書も一緒にやっているのか。それとも、先生方だけなのか。
- A委員 学校司書の参加は基本的にない。月に1回1時間程度、市教研の集まりがある。アニメーションの事例研究等。
- 副座長 学校の先生がクラスで本を読んでいると、そのクラスの子どもは本が好きになる傾向があるようだ。
- B委員 市教研というのは、2-⑧イのことか。
- 座長 2-⑥⑦に出てきます。2-⑧ウの研修会とも違うし、学校司書連絡会とも違う。
- B委員 違うのはわかるが、どのようにまとめるのか。
- A委員 2-⑥⑦はまとめたほうが分かりやすいのではないか。
- B委員 教育委員会のいろんな会議の種類をわかりやすく書いて欲しい。
- 座長 用語解説が必要になるでしょう。一般の人にはわからない。
- 副座長 学校司書連絡会は年に4回実施されているのか。
- A委員 去年は2回実施、今年度も2回である。我々としては年4回実施したい。
- 副座長 学校に学校司書がいるのは読書指導だけではなく充実した授業のためである。
- 座長 先ほど、副座長がクラスの先生が読み聞かせをするととても意味があると意見されたが、読書が得意な先生もいればそうでない先生もいる。学校全体としてできている読書の研修の仕組みもできればいい。学校の中で読書のリーダーシップがあるような学校作りが大切である。(4)へ進みます。図書委員は何年生からですか。
- A委員 5・6年生からです。
- 座長 中学校は。
- D委員 各学年で。
- B委員 読書指導の充実4ウについて。報告書19pにあるが、小学生の図書委員が管理できるのか。
- A委員 市図書館から借りたものおよび図書室のものがある。学級文庫で借りた本の番号をつけるなどの管理をさせる。選書および管理を全部がやっているとは限らない。
- 座長 図書室はなくてはならないが、学級文庫はなくてもいいのでレベルが違う話になる。
- B委員 委員会活動として学級文庫をかならずやらなければならないのかというところと違う。最近は図書委員会イコール学級文庫となるのか。
- 副座長 例えば谷戸とかであれば谷戸図書館がすぐそばにあるので、先生がクラスの子どもたちを連れて選ばせては可能である。基本的に、図書館の団体貸出の責任者は子どもたちではなく先生である。学校図書館の本を学級文庫として持っていくとか、要は業間読書として対応できる本があるかないかである。
- 座長 これは図書委員会の活動の例みたいな感じであげるのがいい。
- 副座長 図書委員会でそういう活動をしているところもある。
- C委員 2-⑩アイウについて、具体的過ぎる。
- B委員 図書委員会に活動とは何ぞやという時に例としてこのような活動をしていることを書けばいい。

- 座長 家庭への啓発へ進みます。
- 副座長 今は朝読とともに、家読という試みが広がっているらしい。私に関わっている学校でも子どもは本が好きだが、親は子どもが家では本を読んでいるのを見たことがない。子どもは塾に行って、宿題がでて、ゲームして、テレビをみて、そして10時に寝なくてはいけない。この環境の中では本を読む時間はない。肝心要の家庭での読書環境を整えるには、強制的にではなく、保護者の理解を得ながらできることはないだろうかと考える。
- 座長 昭和の時代は親と子の20分読書があった。今は学習塾で読書推進をしているところがあるので無視はできない。
- B委員 宿題として読むのもどうかなと思う。
- E委員 学校から配られている手紙を持ってきた。
- B委員 夏休み前に学校の先生のおすすめ本を出す学校がある。
- 副座長 文庫では、前学年のときに読んだ課題図書ベスト5を教え合う。
- 座長 子どもたち同士の読書啓発という視点を入れると良いと思う。
- B委員 図書委員会でできるのはそこだと思う。
- 副座長 読書旬間が6月と11月にあるが、それと、読書週間は別のものか。
- F委員 学校によると思うが、毎年読書週間が設定されているところは読書旬間に当てたりしているが、校内事情により当てられない場合もある。今年は2回あって、6月と11月とどちらかに当てるが、これも、校内事情により変更あり。
- 副座長 読書旬間とは、本が苦手な子どもも読まねばならないので読めてしまう。実際、読んでみたらおもしろかったということで学級文庫に力を入れていた。家庭は学校にとってとても難しい。
- 座長 図書日より（委員の子どもが家庭へ持ち帰ったもの）とか良いと思うが。
- 副座長 学校司書がいなくなると発行されなくなる事態が起こる。
- 座長 学校司書に頼りすぎると出ない場合がある。司書教諭や教師がもう少し関わらないといけないのかもしれない。
- 副座長 大抵の学校では子ども向けであるがそうでないところもある。図書館のすいせん図書等も含めて、子どもたちは自分に向けて書いていると思わないと読まないと思う。
- F委員 図書館だよりを渡す際に、1年生なら一緒に読んであげるし、読んであげる時間がなかったら、「お勧めの本だからおうちの人と読んでね」と話す。しかし、図書担当でない人はそこまで徹底していないかも知れない。
- C委員 図書館だよりに子どもたちの感想・推薦本が入っているとののは違うと思う。毎回ではダメ。
- 座長 読者は子どもでも、買い整えるのは大人であるので、大人にコミットする必要もある。学校からの配布物で大人に向けてのコメントも必要である。
- 副座長 事業名2-12の取り組みについて。自分自身はこういう体験はなかった。自分たちが学級文庫をしているし、読み聞かせ活動をしているので担任の先生が、今学期はこんな本をよんでもらいましたというのを学級だよりには書いてくれた。
- E委員 保谷第一小の保護者会の日に公開読み聞かせをする。子どもたちが聞いている姿を見てもらうというモットーであるが、参加者が少ない。
- 副座長 読んでいるか否かだと、学校司書ではなく、司書教諭や学校の話になってくる。西東京は学校司書が二校に1人兼務であるので、保護者による読み聞かせの相談には対応できない状況。現状では先生と子どもたちが学校司書のサービス対象である。1校1名のときが来れば可能なのかもしれない。図書館だよりを出しているだけ大きい。0歳に関わった子どもが小学生になっていって今はどう、と聞くと、読んでいませんと言う。ゲーム好きなお父さんに付き合っ

いるとのこと。

- 座長 こういうレベルの話は大事。具体的な確認をしている。今日出た話を盛り込んでいつ直すかになる。
- 副座長 中学生が本日は明確にならなかった。ブックフェスティバル後に中学校の学校司書に確認をとってもらう。
- 座長 まだ、考えていくことはあると思うが、学校の残りをやりつつ、乳幼児をやっていきたい。
- 事務局 乳幼児の新たな資料を数日前には配布する。
- 座長 途中であるが、続けていくと具体的な課題が見えてくる。最終的にあまり具体的なレベルのことを書くのではないので抽象的にもう一回戻すが、具体的なレベルをどのくらい載せるかになる。現況と課題に変更予定。次回には決定する。
- A委員 蔵書数の充実は書き入れたほうが良いのか。
- 座長 現況は100パーセントであるが、今後の選書の仕方を含めて、どのように100パーセントを質も含めて維持していくかを記載する。
- B委員 図書館から配布されたタイトルが羅列したもので疑問があるが。
- 事務局 3課あった場合にどのようにまとめていくか。
- 副座長 東村山を参考にすれば良いのでは。
- 座長 中身が分からないと書けないので次回やる。
- 事務局 名簿を配布したいが、良いか。
- 全委員 賛同
- 座長 本日は終了します。次回は谷戸図書館にて。

2 今後の日程について

第3回	8月19日（水）	午後2時から	谷戸図書館
第4回	9月17日（木）	午後2時から	
第5回	10月14日（水）	午後2時から	
第6回	11月	未定	
第7回	12月	未定	
第8回	1月	未定	

7 その他

- ・懇談会委員内での連絡のため、連絡用名簿を作成する。
- ・会議録は要点記録とする。

次回 会議の日程 8/19（水） 午後2時から 谷戸図書館 読書会室